



教室では生徒でも小学校では講師として活躍



日本語発表会で日ごろの成果を



防災訓練にも参加する生徒たち



授業は講師とのマンツーマンで

「私たちは地球市民」を合言葉に ボランティアが力を合わせ 外国人市民との共生社会に役立ちたい

狭山市国際交流協会日本語教室は、平成3年の協会設立と同時に開設されました。現在の生徒数は約70名で、同協会の日本語学習部会が主体と

なっており、毎週日・火・金曜日に、新狭山・中央・広瀬の各公民館で教室を開いています。

「私たちの協会は市民ボランティアによって支えられています。そのため、講師の皆さんも無報酬なのですが、いつも熱心に取り組んでいただき、頭が下がります」と語るのは同協会会長の野口建司さん。

狭山市に住む外国人は、留学生や企業で働く人、結婚して住み始めた人など、それぞれに事情がありますが、生活の基本はまず日本語を覚えること。短期滞在の人と、これから長く住む人とは、教える内容や方法も違うので、集合形式ではなく、すべて個人に合わせた講師とのマンツーマンで授業をしています。

その中でお互いの信頼関係が築かれていくのが私たちの喜びです」と話すスタッフの皆さん。また、外国人は不慣れた生活の中で、言葉以外の問題にも直面しますが、それをき

かけに教室を訪れる人も多いといえます。

もちろん受講料などは一切不要で、日本語教室は、彼らにとって異国の地のオアシスのような存在になっています。

「私たちの教室は単なる学習ではなく、外国人とのコミュニケーションを大切にしています。日常生活で分からないことや悩みごとがあれば、同じ出身国の方と一緒に相談にの

けるなど、できる限りの手助けをしています」とスタッフの皆さんが語るように、生活相談をはじめ、ごみの出し方、医療の受け方、冠婚葬祭など、地域社会のルールや慣習についても教えて、暮らしに役立ててもらっているほか、防災訓練にも参加を呼びかけることで、外国人の防災意識は少しずつ高まったそうです。また、学校からの依頼で、教



野口会長(前列中央)と、日本語教室を支えるスタッフの皆さん

狭山市国際交流協会

日本語教室

このように、狭山市国際交流協会日本語教室は、語学学習を超えた情報交換の場となっています。さらに、教室から地域へ発信する事業も積極的に行うなど、運営スタッフ皆さんの豊かな国際感覚と情熱が教室に注がれ、進展する地域の国際化の中で、外国人市民との共生社会を築く大きな役割を担っています。

成人式会場で、 今年の新成人に聞きました

あなたの将来の夢は
狭山市に望むこと
社会にどのように貢献しますか



大河原麻衣さん
(入間川在住)

海外留学して、語学や文化を学びながら世界を見つめ、世界から日本を見つめ直したいと思います。今ある多くの緑の自然を、これからも残してほしいです。子どもが安心して暮らせるまちになるように市民として貢献したいです。子どもは3人ぐらいは欲しいです



山下洵平さん
(柏原在住)

障害者スポーツのインストラクターになりたいと思っています。駅などの公共施設のバリアフリー化をもっと進めてほしいです。福祉サービスの充実を図ることが大切だと思います。自分が育った地元に少しでも恩返しするため、福祉の分野に進んで貢献したいです



川原祥世さん
(北入曽在住)

幸せな結婚をして、家族とともに温かい家庭を築いていきたいです。映画館など若者が楽しめる施設がもっとあれば、活気あふれるまちになると思います。高齢化社会の中で、介護の分野で福祉ニーズに応えられる道に進んでいきたいです



三上麻里さん
(鶴ノ木在住)

大学での勉学のあとは、神主になるつもりです。いつまでも緑豊かで暮らしやすいまちであってほしいです。東京と比べ、すぐれているこのまちの生活環境を保ってほしいと思います。神主になって、日本の伝統文化を引き継ぎ、後世につなげていきたいです

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

2953 1909
問合せ宮川佳子さんへ

のんびり、コソコソ、和気あいあいと活動するのが、サークルの特徴で、作品を作っているときも、楽しい会話が絶えません。また、昼を挟んで活動しているの、昼食会も楽しみの一つです。これからも楽しく作品を作り、活動して行きたいと思えます。

私の宝物...

私の人生を見つめている五葉松

私が生まれる前からある庭の五葉松は、父が90年ぐらい前に植えたものです。以前は植木屋さんに任せていましたが、6年ぐらい前から自己流で手入れをしています。春に新しく



田口義保さん
(北入曽在住)

でた芽の部分折る「芽摘み」や成長が止まった秋、全体を見ながら必要のない芽や枝を落す「剪定」を農作業の合間に行い、枝振りや形状を整えます。私の心を和ませてくれる、父から引き継いだ宝物。これからも大切に育てていきたいと



剪定作業は数日かかります。思います。

今回は、青柳在住の友人を紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.318



それぞれが作った花で一つの作品を仕上げます

アートフラワー ちどり会

私たちの会は、柏原公民館の講座がきっかけで発足したサークルです。現在10名で月2回、木曜日に活動しています。アートフラワーは、白い布を染色し、ワイヤーなどを使って、本物そっくりにする造花です。作品を作る前には、本物の花や本などで、花びらやおしべなど、細かく観察し、作る花のイメージに合わせて、布の素材を選び、色付けなどを行います。しかし、でき上がる作品は毎回、少しずつ違い、このむずかしさが魅力でもあり、思ったような作品ができるときは、嬉しい瞬間です。私たちは、市民文化祭で発表する作品を、1年間かけて作成し、その作品を公民館に飾ってもらう予定です。